

# 館山支部だより Vol.121

<支部連絡窓口>  
千葉県隊友会館山支部  
事務局(代表)川村 巖  
〒294-0032 館山市笠名1357  
TEL 0470-22-0230



<満開のソルダム(すもも科)>  
拙宅の庭先から

4月は、各地で春先の風物詩とも言入社式や入学式などで活気が感じられる時節ですが、同時に諸団体にとって年度の切換えの節目の時期でもあります。隊友会館山支部として年度の会活動の切換えの時期に際し、会員の高齢化、入会者の減少等、正常な活動を維持推進する上で必ずしも好状況にはありませんが、会としての活動趣旨に沿うべく鋭意工夫努力する所存ですので、会員諸兄の一層のご理解ご協力をお願い致します。  
<館山支部長>

## 支部の活動概要

### <<2・3月の活動実績>>

- 2.26(月) 防災備蓄品払出訓練研修  
(安房地区防災備蓄倉庫)
- 3.16(土) 県隊友会後期支部長会議(千葉市民会館)
- 3.20(水) 館山市戦没者慰霊祭(鶴ヶ谷八幡宮)
- 3.30(土) 年度末支部役員会(コミセン)

### <<4・5月の活動予定>>

- 4.17(水) 令和6年度県隊友会通常総会  
(三井ガーデンホテル千葉)
- 5.25(土) 令和6年度館山支部総会
- 5.27(月) 落下傘部隊戦没者慰霊祭(安房神社)
- 6.1(土) 支部役員会(別法、コミセン)

## 令和6年度館山支部総会行事のご案内

恒例の館空会・隊友会館山支部合同の総会等行事を次のとおり開催することになりました。両会にとって多くの会員が一堂に会して相互に交流を深め合う上で絶好の機会でもあります。一人でも多くの皆さんの参加をお待ちしております。なお、合同懇親会には第21航空群司令はじめ各隊司令、隊員代表の皆さんの参加が予定されております。

### <<令和6年度総会等行事>>

- 期 日:5月25日(土) 16:30(予定)~20:00
- 館空会、館山支部それぞれの総会に引き続いて両会合同の懇親会が行われます。
- 行事スケジュールの細部については、別途参加予定者に連絡することにします。
- 場 所:夕日海岸昇鶴 (旧称 たてやま夕日海岸ホテル) TEL23-8111(代)
- 懇親会会費;7,000円

※ 出欠返信ハガキ期限:4月26日(金)までに投函  
送迎便については別途、参加予定者と連絡・調整することにします。  
なお、館空会に所属する会員については、別途、館空会から出される案内に基づいて出欠の返信をして下さい。  
<支部事務局>

## 県隊友会総会における議決権の委任について

4月17日(水)千葉で行われる令和6年度千葉県隊友会通常総会には、支部長ほか支部理事役1名が参加予定です。総会に参加されない会員については(参加する)支部長に議決権を委任することになりますが、「隊友千葉だより、3月号」掲載の議案についてご意見・異議等ある方は、4月15日(月)までにご連絡下さい。  
<支部事務局 TEL0470(22)0230またはメールg\_marine@f5.dion.ne.jp >

## レクイエム

1/28 高木俊男会員 ご逝去(海、享年88歳)

隊友会支部会員として長年のご協力ありがとうございました。  
ご冥福をお祈り申し上げます。合掌 <支部会員一同>

## 「防災備蓄倉庫・払出訓練を研修」 2024. 2. 26 館山亀ヶ原備蓄倉庫

館山市内の亀ヶ原に防災備蓄倉庫があることはあまり知られていないようですが、市内の各区に設けられた「防災コンテナ」に比べると、ある程度のもまとまった数の非常用糧食や生活用品、器材等が蓄えられております。

今回、備蓄倉庫の管理を所掌する安房地域振興事務所主催の払出訓練を研修する機会を得、支部から日向顧問(県参与)、榎本・本田理事役及び支部長の4名が参加しました。亀ヶ原の備蓄倉庫は2階建の平素は無人の倉庫ですが、熱湯を注ぐだけで食用に供することのできるアルファ化米や乾パンなどの応急糧食、非常用飲料水をはじめ育児・生活用品やエアータント、洋・和式簡易トイレ、ダンボールベッドなどが相当数蓄えられております。2019年の台風15号で未曾有の被害を蒙り、長期にわたる停電に悩まされた南房総でしたが、倉庫では非常用発電機(35基とか)が出番を待っていたのかもしれない。

千葉県(防災危機管理部門)は、阪神淡路大震災の教訓等を踏まえ「千葉県地域防災計画」に基づき中央防災センターの設置をはじめ防災備蓄倉庫の整備を進め、現在、現在県内に10カ所の備蓄倉庫が設けられております。(しかしながら)亀ヶ原に限らず千葉県の備蓄倉庫はまだ備蓄品を払い出した実績が無いというのが実状のようです。実動が無いに越したことはないのですが、いざという時に役立ってこそ備蓄品の意味があると思うのです。

さらに昨年、市原市に“大規模備蓄倉庫”として近代的な4階建ての中央備蓄倉庫を整備し、各備蓄倉庫への適時迅速な不足物資の補充とともに大規模災害発生時の被災地への救援体制の強化充実に向けた取組みが行われております。このことから今後(今まで眠っていた?)県内の防災備蓄倉庫が活気付くであろうことは多分に考えられるところです。

この度の備蓄倉庫から物資等の払出・輸送及び組立訓練は、安房地域振興事務所として一連の手順の実証確認の目的で初めて行ったもので払出品目もごく限られたものでしたが、我々としても今後の協力支援を考える上での参考になりました。

千葉県隊友会は、「千葉県との防災協定(2018. 3. 22署名)」に基づき災害発生時における協力を行うようになっております。具体的には、平素における備蓄倉庫の管理から災害発生時に被災地への備蓄物資等の払出等の支援になりますが、亀ヶ原倉庫の場合、平素の機材の保守点検は業者に委託し、被災地への輸送はトラック協会と協定を結んでいるということで、我々が支援する作業の主体は物資の出庫・トラックへの搭載にあると考えられます。払出物資の数量等により支援要員の規模(人数)も異なりますが、倉庫には(荷物を2階から1階へ降ろすための)シューター(滑り台)や床面運搬用のカート、ローラー等が備えられており、多量の物資等の運搬作業も比較的効率良く処理できると見受けられました。



<エアータントの展張訓練・富浦体育館>

ただ、懸案の事項として“即応性”の問題が挙げられます。被災地へ救援物資を届ける、という即応性を求められる事案であるだけに、協力支援する側として「予備員を含め固定的な支援要員を指定」しておく必要があると思われます。隊友会が事業の一つとして重視する「地域社会貢献、防災協力」の場・機会でもあるのです。

館山支部として今後、支援要員の派出について近隣の安房支部と調整を進めるとともに安房地域振興事務所と協力支援要員等について話し合いを進めていく所存です。

<<支部長>>

## リアルタイムで記録された戦時日誌・戦闘詳報

海軍の各部隊は戦時中、戦闘状況を伝える一次資料として「戦時日誌」を作成して上級司令部に提出していた。開戦以前は日中関係が悪化し始めた昭和10年ころから「事変日誌」として作成されていたが、真珠湾攻撃の12月8日から一斉に「戦時日誌」に改称され、終戦まで続けられていた。終戦により海軍省の命によって多くの文書が焼却処分され、焼却を免れた文書も殆ど占領軍に接収されたが、昭和50年ごろ大部分が返還され、以降、防衛省防衛研究所の戦史部で一元的に管理するようになった。

戦時日誌は、戦時における「戦闘状況」に限らず部隊の状況を知る上での一次資料、見方を変えれば「生の記録」とし有用であり、筆者も足繁く防衛研究所通いを続け、館山に関する資料、情報の収集に執念を燃やしたことがある。

周知のとおりこの館山の地には、館山航空隊を筆頭に開戦直前に開校した館山砲術学校、そして戦争半ばのS18年に開隊した州ノ崎航空隊(航空兵器整備員養成部隊)の三つの海軍部隊があり、いずれも最盛期には1万5千名を超える兵員を擁する大部隊であった。

ところがこの三つの部隊の「戦時日誌」は一日分たりとも残っていないのである。殊に館山航空隊については日誌に限らず戦時中の記録資料等は“まったく”残されていない。終戦時、完璧に焼却処分されたのであろう。とは言え仮に作成元で焼却処分されたにせよ、上級司令部はもとより海軍省(功績調査部)にも必ず報告文書として届けられているのである。どこかに残っている筈であるが何とも不思議な話である。

かと言って館山航空隊・基地の戦時の状況を知る術は全く無いわけでもない。残されている「横須賀鎮守府戦時日誌」(S14~S17年分)には隷下部隊からの報告がまとめられて記載されている。また戦時中、館山基地には252空館山派遣隊や903空司令部などの多くの部隊が駐留し、残されているそれらの部隊の戦時日誌や戦闘詳報から館山の状況の一端を知ることができる。

リアルタイムで記録された“生の資料”としての意義 (館山航空隊とは関係のない事例から)

○硫黄島の第107海軍砲台のS19. 9月1か月分の戦時日誌が残されている。紙片にエンピツ書きの数行のメモから、連日連夜の空襲下、阿鼻叫喚(あびきょうかん)の極言状態で任務に就いた砲台長以下数名の戦闘の様子を知ることができる。

○S19. 10末、レイテ沖海戦に出撃した連合艦隊最後の空母機動部隊、「四艦隊」と称された小澤機動部隊の空母「瑞鳳」の海水に滲んだ戦闘詳報には撃沈1時間前の状況が生々しく記されている。爆弾による火災で大きく波状に膨らんだ飛行甲板や次第に傾斜が大きくなった艦の状況など、(上級部隊等がまとめた)二次資料からは読み取ることのできない情報を得ることができる。

<<自称地域史探索マニア その44>>